

ともにいのちかがやく世界へ

大悲

元本願寺派総長
題字 蓮 清 典 師

(第63号)
令和元年. 5. 1
(2019)

昌平寺
昌平寺門信徒会

〒359-0036 所沢市旭町22-8 電話 (04) 2994-8887



昌平寺彼岸会

令和元年 昌平寺行事御案内

- 一 合同墓地追悼法要第一墓苑(5月12日)
勤行・法話 午前11時～12時
- 二 門信徒会総会 6月2日(日)
本願寺派布教使 園淵和貴師
勤行・法話 午後2時～3時
総会 午後3時～4時
- 三 本堂預骨室 7月21日(日)
本願寺派布教使 赤川浄友師
- 四 武蔵野墓苑孟蘭盆会 8月4日(日)
第一回勤行・法話 午前11時～12時
第二回勤行・法話 午後1時～2時
- 五 孟蘭盆会 8月15日(木)
本願寺派布教使 宮本義宣師
勤行 午後2時
- 六 秋季彼岸会 9月23日(月・祝)
武蔵野大学学長 西本照真師
法話 午後3時～4時
勤行 午後2時
- 七 開基住職小畑俊哲忌 11月2日(土)
法話 午後3時～4時
- 八 報恩講 12月1日(日)
- 九 (報恩講述夜法要等)11月30日(午後6時～)
成道会の集い 12月7日(土)

修正会法話

み仏の光を仰ぐ元旦会

昌平寺住職 遠山久敬



新年あけまして、おめでとうございます。

みな様は、今朝の日の出をご覧になりましたか？ 私は、家でTVで富士山の初日の出を、そして、車中で少し昇ったところを直接拝見しました。

日本人は特にこの初日の出を愛でますが、昨日も、一昨日も日の出はありました。

さらに、明日、明後日の太陽とはどう違うんでしょうか？ 一月一日の太陽だけが、光、輝きが違い、暖かさが違うんでしょうか？

そんなことはありません、同じ太陽です。でも、一月一日の

太陽は、特別に見え、手を合わせて拝むんです。

昨年の生活に感謝して、今年の安穩を願うんです！

それもいいでしょう。

暗い夜、進む道も見えなかった私の上に、太陽の光が差しこ
とにより、見えないものが見え
てくる。暗闇では立派な眼があ
っても、障害物や危険なもの、
探しているものが見えない。な
ので、太陽の光に手を合わせる
のでしょう。ならば、太陽は、
明日も明後日も毎日出てまいり
ます。毎日、手を合わせてもよ
いと思いますね！

さて、阿弥陀様も光の仏さま
です。（本堂の阿弥陀様には御
光を針のような光背で表してい
ます。）東方・西方・南方・北
方十上方・下方、そして、過去
・現在・未来の四方八方三世に

届く無碍の光です。この光に当
たる（触れる）と、智慧の光が
当たることによって、私にとつ
て危険なもの、大切なものが見
えてくるんですね。また、私の
三毒の煩惱がみえてくる。（知
識でなく解かってくる）

心の三毒（貪・瞋・癡）

貪おん 貪おん 瞋しん 癡ち
しがる、際限なくほしがる）、
瞋しん 怒り（自己中心的な心で、
怒ること、腹を立てること）、

癡ち 迷妄めいもう（物事の道理に暗く
実体のないものを真実のように
思いこむこと）

と、同時に温かさを感じられる
ようになる。
因幡の源佐さんは

「お慈悲の光は温ぬくいでああ！」
と詠まれています。

毎日出てくださる、おてんと
うさま（太陽）を拝むように。
阿弥陀様の光に当たったら（氣
が付いたら）三百六十五日手を
合わせお念仏申しませう。
ナムアミダブツ・・・



みなさん、覚えてますか！

一昨年の住職継職法要の記念
に、伊東の宝専寺様より戴き植
樹を行った椿（宝専寺椿）

昨年は、蕾をつけられなかつ
たんですが、今年は、二個の蕾
をつけました。

お彼岸には写真の通り「ポツ
！」とピンクの花が咲きました。

南無 南無



報恩講話

聖人の三つの影像

武蔵野大学名誉教授 山崎龍明



私たち浄土真宗の教えに生きる者は、親鸞聖人のご命日である報恩講話要を、大切に勤めます。御本山西本願寺では毎年一月九日よりご満座法要まで盛大に勤められます。極寒の中大勢の御参詣の方々が冷えた手をこすりながら、お念仏申す姿に若い私は感銘したものです。

一般にお東といわれる大谷派では十一月の二十一日から二十八日まで、報恩講の法要がつとまります。旧暦では親鸞聖人のご往生が十一月二十八日と伝記に記されています。

「それよりこのかた、口に世事をまじえず、ただ仏恩のふか

きことをのぶ。声に余言をあらわさず、もはら称名たゆることなし。しずかに念仏の息たえおわんぬ」（『御伝鈔』下巻十四）と示されています。

簡単にいうと、ただアミダ如来の法にであつたよろこび、御礼の念仏のみを申すばかりであった、ということなんです。私たちの最後は果たしていかがでありましょうか。私はこのお言葉を拝読するとき、いつもこのことを考えさせられます。

私は報恩講の季節になると聖人のご影像をしみじみと拝見することがあります。よく知られるものに三つあります。

(一) 鏡の御影。親鸞聖人のご影像の中でも傑出したものです。専阿弥陀仏の作（十三世紀）。聖人のご影像の中で最もよく知られたものです。多難な人生を

念仏と共に生き、この世の不実をみぬき、真実に生きんと覚悟されているような、影像です。

(二) 安城の御影（三河安城）。黒衣墨袈裟をつけ、両手で念珠をもっています。前には愛用の火桶、草履、鹿杖が置かれています。愚禿親鸞八十三歳と署名されています。襟元の襦袢の朱色が見えるのが、特徴です。建長七年、一二五五年。

聖人が赤い襦袢をつけているのは土地の貧しい女性から贈られたものだという説がある、と、お聞きしたことがあります。法然上人にも「室津の遊女の教化（導き）」という伝説が伝えられています。聖人らしいお姿です。

(三) 熊皮の御影。獣皮を敷いているところからこういわれます。中世では獣皮が高徳の老僧の座であるといわれました（十五世紀）。

熊皮にドツカと座っておられる聖人の珍しい御影。迫力満点です。背筋がピンとします。これらの御影に共通している

のは、信心に生きる聖人の毅然とした姿勢です。聖人が念仏専ら事件の後『教行信證』に「しかればすでに僧に非ず、俗に非ず」（私は国家の認める僧ではない。さりとて単なる俗人ではない。念仏者である。）と決然と言いつつ情景を想起します。

今、世界が混沌の只中にあるとき、私たちがこころざしているかなければならないのは、嘘と抑圧がうみだす人間の悲劇です。聖人が最も大切にされた言葉は「真実」です。「いつわりなく、かならずもの（衆生）のみ（実）になるもの」を「真実」とされました。「無知主義」とか「反真実」の時代などといわれる昨今、聖人の「真実を求め。真実に生き。真実に帰る（往生）」という宗教的世界の回復が望まれます。

真宗の回復は、人間の回復、私の回復、よりよき国（貧困・差別・争いのない国）の回復です。

速夜法要によせて

浄土真宗本願寺派布教使 小 木 尚 文



京都御本山の御正忌報恩講を目前にして、御取越の昌平寺報恩講が十二月一日・二日厳修です。本日のお速夜（速夜とは命日の前の夜の事です）御門徒の方々のお参りをいただき嬉しく思います。遠く鎌倉時代を生きぬかれた御開山聖人の恩徳を報ずる法要であります。聖人の一代記は覚如上人御作の御伝鈔に述べられております。

されど報恩とはむずかしいものだとつくづく思います。昔の人は、孝行のしたい時に親はなしと云い、石（墓石）に布団は着せられずと云いました。恩を報ずる事をしたくとも出来ずにいる私達であるのだと恥いる時、小慈小悲もなしと歎かれた聖人の姿に頭が下がります。されど聖人は往生礼讃の御文「自信教人信 大悲伝普化 真成報仏恩」を御誂として歩まれていく。正信偈には「唯能常稱如来號 應報大悲弘誓恩」とするされ、それが恩徳讃の「如来大悲の恩徳は身を粉にしても報ずべし師主知識の恩徳もほねをくだきても謝すべし」につながっていく。親鸞聖人の報恩とは、本師源空上人を含む七高僧の方々のみ教えに、そしてなにより阿弥陀様の大悲「必ず救う、まかせよ帰せよ」の本願にむかわれていく。無明常夜のただなかで無始よりこのかた生死流転のこの身が、阿弥陀様の救いのめあてであった、それが私一人の為の五劫思惟の御苦勞であつたと信じられ

た時、おのずから南無阿弥陀仏の御名号が声となつて口からほとばしりいでくる。助けて下さいの意趣でとなえる念仏ではない素直にありがたい・ありがたいのお名号であつたのでありましょう。

正信偈の終わりに「道俗時衆 共同心」とあります。すなわち一切衆生、私も貴方も共に煩惱具足の身なれども救われていく道、往生浄土の道が開かれていくのだとおしめし下さつたのが御開山でありました。ではその聖人への私達の報恩とはなんでありましょう。それは、まちがひなくお浄土参りをさせてもらう、これ以外に無いのであります。

そういえば、先般の門信徒会誌「大悲」の中で国府別院の本堂正面上に掲げられた額「思徳發信場」の言葉が「恩徳發信場」となっていました。考えてみますとそれもおぼしめしかなどと思えるのです。思徳より恩徳の方が聖人一流なのではないかと思えるのであります。

かえすがえす報恩とは難しい

ものだと思えます。子供の頃は親に叱られ、先生に叱られ、近所の大人に叱られたわたくしでありました。年をとると叱つてくれる人がいなくなる。そんな時私は蓮如上人に叱られます。それは「當流にその名をかけ、その信心を獲得したらん行者、この御正忌をもつて報謝のころざしをはこばらざらん行者において、まことにもつて木石にひとしからんものなり」

「未安心の行者にいたつてはいかでか報恩謝徳の儀これあらんにや しかのごときのともがらはこのみぎりにおいて仏法信不信をあいはずねてこれを聴聞して まことの信心を決定すべくんば真実真実 聖人報謝の懇志にあいかのうべきものなり」報恩講は私にとつて叱られうなだれる一年のありがたい日々であります。されど、そのままこい、かならず救うの阿弥陀様の呼び声のなんとたのもしい事か！これを教えて下さつて御開山様ありがとうございます。 恩講であります。 合掌

お経さま「一切の群生海」

坪内春雄

「一切の群生海、無始よりこのかた乃至今日今時にいたるまで、穢悪汚染にして清浄の心なく、虚仮諂偽にして真実の心なし。

ここを以て如来一切苦悩の衆生海を悲憫して、不可思議兆載永劫において、菩薩の行を行じたまひしとき、三業の所修、一念一刹那も清浄ならざることなし、真心ならざることなし。如来、清浄の真心をもつて、円融無碍不可思議不可称不可説の至徳を成就したまへり。

如来の至心をもつて、諸有の一切煩惱悪業邪智の群生海に回施したまへり。すなはちこれ利他の真心を彰す。ゆえに疑蓋雜はることなし。

この至心はすなはちこれ至徳の尊号をその体とせるなり。」

― 教行信証・信文類 ―

このご文は浄土真宗正依の經典「顕浄土真実教行証文類」の中の「信文類」にあります。

何と大きな深い、そして厳しい、仏さまの大慈悲心でありましょうか。末世の凡夫・私たちの固い鈍い心にも響き沁みわたる、み親の喚び声であります。

「一切の群生海」とよびかけられているのは、時、処を超えてこの地上に生を受けている者全てを指しておられます。「群生」はまた「群萌」ともいわれ、私たちの心は煩惱が激しくて、さながら雑草のように生い茂り萌え立つさまにたとえられます。

「海」は誰も誰もみな一人としてこれから外れる者はないので、大きい海にたとえておられます。親鸞聖人様は、阿弥陀如来様の大悲の光明によって、照らし出されたご自身の心の涯底を大自覚なされたばこそ、「一切の群生海」と呼ばれ、何百年経つても、生の声となつて末世の私

たちの心に響きます。

「穢悪汚染にして清浄の心なく、虚仮諂偽にして真実の心なし」は、大悲の光明に照らし出された、ずばり私たちの心の正体をこのように仰せられます。

「穢悪汚染」とは、自己最優先に生きるために、貪り怒り愚痴これら煩惱に心を使い果たしている、あくことなき刻々の心の様であると仰せです。日々心の使い方は自分を優先し自分を守り、そのためには人を見下げたり、遠ざけたり嫌ったり、傷めたりのを走り使つて止むことがない、と。

そして生き勝つていくために、嘘を装い嘘に馴れ合い、諂い騙しあう毎日の私たちであるといわれるのです。社会世間では、自分の心は、お互いに隠しあい、ごまかしあい、だましあうことができ、うわべはどのようでもつくろうことが出来ますが、仏様の光明の前では、何ひとつ「それはちがいます」と言い返すことはできません。真実のまえには頭を下げるほかにありません。「ここをもつて如来、一切苦

悩の衆生海を悲憫して」とは、この私たちの心を悲しみ憐れんで、必ず救うと大悲心を成就されるために、法蔵菩薩さまは超世無上の大弘誓を建立された、正信偈文を日常に私たちは戴いております。

「五劫思惟」「不可思議兆載永劫の修業」という大変な長い時間を私たちの心を救うためにご苦労くださった親様・阿弥陀如来様の大悲であります。

「円融無碍不可思議不可称不可説の至徳」と讃えられるお働きの親さまでないと、衆生・私たちの心は救われぬ「煩惱悪業邪智」で明け暮れていくのでありましょうか。

こんな私を放置できないから、人智の計量をはるかに超えた不可思議力であらせられる如来様が「南無阿弥陀仏」となつて、私たちの心に響き沁み入つてくださいます。

私たちの口業に「南無阿弥陀仏」とあらわれてくださり、そのお心が私たちの煩惱の心を大自覚させてやりたいと、「目覚め」をひたすらにうながして、

五臟六腑に沁み入られることを「回施したまえり」と、親鸞聖人様は慶んでくださるのです。

煩惱だけのお互いが受け渡す損得勘定を目的としたようなものとは全くちがいで、如来様の心が私たちの心に入られ、煩惱を融かし消去し、転じてくださるはたらきであります。それほど大きな働きをしてくださる大悲心・南無阿弥陀仏であるから「円融至徳の嘉号」、「尊号」と讃えておられます。

この尊号が私たちの口業にあらわれて、私たちの心(思い)

故郷の妙好人「因幡の源左」

池田新八郎

山陰線鳥取市から西へ進み、右に鳥取砂丘、左に湖山池を見て、更に二十分程行けば青谷の駅に達します。北は日本海、南に日置川をつたって約一里、山根という里がある。見ると何よりも遙か鷲峰山に抱かれた願生寺の赤い大きな葺が眼に映る。ここが因幡の源左の生きた土地

・口(ことば)・身(行い)の三業を護り続けてくださることあります。

「一切の群生海」。この厳しい喚び声は、すでに私たちは無上上の大悲の御手の中に摂取されている証であります。

至心という阿弥陀仏のお心は見ることも触れることも出来ませんが、三世十方法界の至心様の御手の中に「仏の子」として今を生かせてもらっております。南無阿弥陀仏 合掌

であり、私の故郷でもあります。故郷を離れて約六十年、大学進学の為上京し、そのまま東京生活、退職後も所沢の地で家族を持ち老後をむかえています。故郷は遠きにありて思うものなのか、喜寿をむかえた現在郷愁に駆られる日々である。帰郷の際、この願生寺の住職

が一冊の本「妙好人因幡の源左」(柳宗悦・衣笠一省編)を読ん でみないかと贈呈くださった。永らく私の書棚に眠ったままでしたが、老後の生活の中で取りだして読み、改めて源左の信仰とは何なのか、妙好人とは何なのか考えさせられています。

想いかえせば願生寺は私の心の原点でもありました。無邪気な少年時代、願生寺は小さな村の文化の中心地であり、私の遊び場でありました。お正月、お彼岸、お盆(盆踊り)、お寺参り(法話会)等々さまざまな行事があり、少年たちには心躍らせる場所でありました。

妙好人源左はこのような土地柄の中で生まれたのだと、願生寺を訪れた柳宗悦氏は述べています。妙好人とは多くは名も無い田舎の無学な人たちであるが、俗にあつて淨い念仏の一生を送った人達のことです。実際源左さんは文字も読めず、聴聞によつて学び、人々に仏法を広めたそうです。ただその信仰の把握の純度に於いては学僧も遠く及ばないと言われています。他の宗教では妙好人のような人はあまり生まれしていないそうです。

なぜなのか？妙好人が生まれるのは彼らを生み育てる雰囲気があるからで、真宗の信仰に土地の風潮がないと妙好人はなかなか生まれてこないようです。

それ故親鸞聖人の教えは、妙好人を得ることによって輝きを充分に発揮してきました。

源左は口癖に「ようこそ、ようこそ、有難うござります」と言われていますが、それは大悲に支えられた人生への感謝と法悦の表現であつたようです。また息子の嫁に「念仏はなあ、ご信心が入らないと出ないもんだけんのう。鈴でも玉が入りや鳴るけど、入とらんと鳴らんけん のう」と話していたそうです。

今日まで私を育ててきた真宗、故郷の願生寺、そして心の拠り所となつてきた因幡の源左、私の信心はこのような環境の中で生まれたのだと実感しています。現在私は、首都圏にいる四十人ほどの故郷の人たちと「築地本願寺故郷門信徒会」のまとめ役をおおせつかり、築地本願寺で年に一回集まりの会を開催しています。住職も上京され、信仰の問題、故郷の話題でもちきりです。

第24回昌平寺門信徒会定期総会開催のご案内

下記日程により令和元(2019)年度定期総会を開催いたしますので、多くの会員皆様のご出席をお待ち申し上げます。

【日 時】 令和元年6月2日(日)午後2時00分～

【場 所】 昌平寺本堂

【総会次第】

- 1 開会の辞
- 2 勤行・基調講演
講師 西法寺副住職・本願寺派布教使 園淵和貴 師
— 10分 休 憩 —
- 3 総会開会(総会成立宣言)
 - 1) 会長挨拶
 - 2) 議長選出
 - 3) 議事
 - ア) 平成30年度事業報告
 - イ) 平成30年度会計決算及び監査報告
 - ウ) 令和元年度事業計画(案)
 - エ) 令和元年度会計予算(案)
 - 4) 議長解任
 - 5) その他
 - ア) 昌平寺住職挨拶
 - イ) 恩徳讃唱和
- 4 閉会の辞

*会員の皆様には、総会出欠の通知(兼委任状)の返信用ハガキと会費振込用紙を大悲63号(本号)に同封いたしましたので、折り返し、出欠のご返信と会費ご納入の手続きを賜りますようお願い申し上げます。

つれづれ

築地本願寺の結婚式

2月末、埼玉組の研修で築地本願寺に参りました。

二日目、その日執り行われるという結婚式の見学をお許しいただきました。

本堂はご親族のほか、偶然お参りに見えた方々も座っておられました。外国の若い女性観光客も何人かいて、嬉しそうにカメラを構えていました。

パイプオルガンの音色に包まれる中、新郎新婦が緋毛氈の上を歩き本堂正面に近づいた時、上からたくさんの華葩が舞い降り、思わず心の中で歓声をあげていました。

新郎新婦が阿弥陀様の前の外陣に着席後、ご導師の入場そして雅楽が厳かに演奏されました。

三奉請・表白のあと讃仏偈が唱えられたところで、私たちは



研修室に呼び戻されました。

「念珠の交換・誓いのことば」まで見届けることができず、心が少し残りました。

厳かな雰囲気のもと、やさしさと温かさに溢れる仏前結婚式を初めて拝見することができた貴重なひとときでした。

偶然というご縁のもと、その場に居合わせた多くの方々も幸せのお裾分けをたくさん受け取られて帰途につかれたことでしょう。

思徳と恩徳

前号六十二号でご寄稿いただいた小木尚文師の研修旅行記の中で、師が心ゆさぶられたと書かれた越後国府別院の本堂外陣正面上に掲げられた額の「思徳

發信場」なる文字を「恩徳發信場」としてお届けしてしまいました。大きな間違いでした。

大変に申し訳なく、今号でお詫びを入れさせていただきたい旨をお伝えしましたところ、「速夜法要」の原稿の中にそれとなく書き込んだのでそれで良し・・と言つて下さいました。温かいお言葉をありがとうございます。

このことから改めて「思徳」を学ばせていただきました。

「思徳」は「親鸞聖人のお徳を思う」ことで、額の意味は

「全ての人が念仏せずにはおれぬ歓喜の場」と云われています。

二十代御門主広如上人（一七九八〜一八七一）が書かれたものですが、正式にはいつ頃のものか不詳となっているようです。一説には上人が国府の地を訪れた際に書かれたと云われているそうです。

書写（写経）の会

法話会のない月の第3火曜日
1月、7月、8月、12月
午後1時～3時

講師 香月瓔石（栄爾）
テキスト 「正信偈」「重誓偈」
「讃仏偈」「御文章」

会場は和室（椅子席）です。
筆ペンを使用します。

定例法話会・茶話会

毎月第3火曜日
法話会 午後1時～2時
第二本堂
茶話会 午後2時～3時
和室（椅子席）

（講師は昌平寺僧侶、他各師）
注）1月、7月、8月、12月は休会



「北山公園の花菖蒲を訪ねて」

雨天決行
 日時 六月八日(土)九時半
 集合 西武新宿線
 東村山駅改札口
 コース 弁天橋↓大善院↓正
 福寺↓善行橋↓北山
 公園↓東村山ふるさ
 と歴史館↓徳蔵寺↓
 「こせがわ」↓東村山駅
 参加費 五百円
 (障害保険・昼食代)
 持ち物 帽子・雨具・飲み物
 健康保険証等
 申込締切 五月二十五日(土)
 申込先及び緊急連絡先
 香月栄爾
 04-2945-5392
 090-8439-7003

*東村山菖蒲まつりは

六月一日〜十六日

三百種類八千株十萬本の花菖蒲が咲き乱れています。

*大善院(天台宗)

不動明王三十六童子が見事です。

*正福寺(臨済宗)

地藏堂は都下唯一と言われる国宝です。

*東村山ふるさと歴史館

重要文化財「元弘の板碑」のレプリカが展示されています。

*徳蔵寺(臨済宗)

武蔵野三十三観音霊場七番 狭山三十三観音霊場十一番

御朱印帳のある方はお持ちください。

*昼食は昔ながらの武蔵野の家

庭に伝わる純手打ちの肉汁うどんを味わいたいと思います。

「こせがわ」

諏訪町一―二十三―五

〇四二―三九一―三四四〇

☆どなたでもお誘いあわせの上、
 〆参加をお待ちしています。

秋の研修バス旅行(日帰り)

今年はお親鸞聖人ゆかりの箱根を日帰りで訪ねます。

日時 十月十日(木)

集合 七時半 昌平寺境内

出発 八時

コース 入間IC圏央小田原

厚木道↓箱根口IC
 ↓甘酒茶屋・笈の平

↓箱根神社↓箱根関

所 旅物語館↓小田原
 蒲鉾「鈴廣」↓箱根

口ICより帰途、寺

着十八時頃の予定

*箱根神社 参拝・宝物館見学

*箱根関所旅物語館 昼食・資料館見学

*笈の平 東国での布教を終え

た聖人が四人の弟子とたどり着いた地。引き続き東国の門徒を導くためには性真房一人

をおいていかねばならず、涙

の別れをしたところ。

痛み子をば

預けて帰る旅の空

心はここに残りこそすれ

との聖人の一首が残っている。
 今井雅春(筑波大学名誉教授)先生にご同行頂ける様に現在交渉して居るところです。



ついでに

今上天皇のご退位にともない、五月一日より令和元年のスタートとなります。

四月から五月にかけて十連休が予定されており、郵便業務も滞ることが予想される為、今号は少し早目のお届けとさせていただきます。



平成三十一年三月二十六日

深見けん二選

春塵や愛車の手入れ追ひつかず

浅上 勝敏

手の平に並べてとくと豆籮

浅上 寿子

あたたかや紙の匂ひの鳩居堂

新井 雪江

彼岸入り日差し柔らかか仏間にも

池田新八郎

ふるさとの古き町並彼岸時

大村 敬子

昼からの天覧山の初音かな

緒方 初子

お彼岸の法話のレジメ文字太し

香月えいじ

気まぐれな日差しの中の梅二月

木谷 英子

母の着物袋に仕立て暖かし

木下 尊子

暖かや一人の昼のクロワッサン

久保田よしみ

山寺の焚火煙もお中日

小泉 洋一

鍬を手にときおり仰ぐ春の山

芝 高子

あたたかき日和つづきの彼岸入

鈴木すぐる

暖かや祭のごとく宮参り

鈴木 征子

暖かや又庭に出てみておりぬ

高橋 敏子

お彼岸に二三度会ひて昵懇に

永井 潮

湖に立つ波の音辛夷咲く

永岡美砂子

本堂を出れば入り日の彼岸寺

縄田をさむ

轉に耳を傾け物を干す

福田 敏子

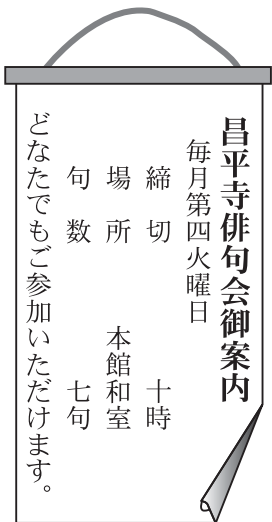
山墓へ人影のゆく彼岸かな

馬越やす子

* * *

一輪は少し離れて初桜

深見けん二



昌平寺俳句会御案内

毎月第四火曜日

締切 十時

場所 本館和室

句数 七句

どなたでもご参加いただけます。

まずお寺へ

皆様方は、御家庭の御仏壇に朝に夕にお手を合わせていらっしやいますね。

本堂は家庭の仏壇の延長線にあるものです。俱に心のよりどころとしてお気軽にお参りください。昌平寺は皆様のお寺です。お葬儀の相談、お墓、仏塔の購入、お遺骨の一時預かり、ご法要の相談、ご仏壇の購入、ご本尊入仏慶讃法要等々仏事の事なら何なりと迷わずにご相談ください。また、昌平寺では、年一度皆様方にお送りしております年間行事表、大悲の冒頭にも掲載してありますように年間を通して十回の仏行事があります。ご家族お揃いでお参りください。本願寺でも有名な先生方をお招きしての御講演、定例法話会もありますので、ご聴聞ください。更に門信徒会による茶話会、書写の会、昌平寺春まつり、年一回の昌平寺門信徒会の新睦をは

かる研修旅行等の行事もあります。ご参加ください。お待ちしております。

最近、テレビ、新聞、週刊誌等で話題になっております葬儀において、納得のいかない請求が多々発生し、トラブルとなることがしばしば見受けられるようです。

葬儀業者の当初の見積り金額、ネット等で調べた金額と大幅に請求金額が違うこともあると聞いております。

やり直しのきかない葬儀ですから各自が細かい部分まで十分にご確認され納得されたうえご契約いただければと存じます。

お葬儀の契約についての苦情の増加は、葬祭業の営業に許認可制がなく新規参入がしやすいという背景があるほか、突然訪れる身内の不幸に動転して、業者のペースで契約してしまうことが多いようです。

こうしたことから、ご葬儀は出来るだけご本人が生前中にご家族と話し合いの上、お葬儀の予

算、ご参加者予定人数・お知らせする方々の住所、氏名、ご家庭の宗派、遺影のお写真、斎場等についてご家族と相談してあらかじめきめておくとご安心いただけるかと存じます。

お葬儀については、まず昌平寺にご相談ください。信頼できる葬祭業者をご紹介させていただきます。

当昌平寺では葬祭斎場二ヶ所、法事本堂二ヶ所を備え、ロビー、駐車場も整備してご来寺のお客様にご不便のないよう努めております。

預骨室のご利用、墓地については、墓苑をお持ちでない方に、当寺では仏塔（永代供養付き合同墓所）、また残りは少なくなりましたが、墓地のご用意もありませんし、その間のお預かりも出来ますのでご利用ください。

なお、当昌平寺では、従来どおり門信徒の方々にご奇進をお願いすることは一切ございませんのでご安心ください。

合掌

編集後記

元号が改まり新しい時代の始まりです。自然災害が増えている昨今、安穏な日々を過ごせませう祈るばかりです。春季彼岸会には、多くの方々にお参りいただき、お元気なお姿に喜ばしい思いでした。

春まつりには、音楽礼拝のあと落語・フリーマーケット・大抽選会・お茶席で盛り上がり、境内いっぱい賑わいで活気づいていました。元気づけられる一日でした。

大悲六十三号をお届けいたします。

六月二日には門信徒総会が開催されます。多くの皆さま方の参加をお待ちいたしております。

新緑爽やかな季節のひとつきを楽しみたいと「ゆつくりウォーキング」を企画いたしました。

お友達を誘いあわせての参加をお待ち致しております。

鶴子

Topics



土田末男氏門徒総代辞令



御絵伝



小木尚文師法話



礼拝



山崎龍明師法話



蓮華殿



楽友会合唱 指揮太田文子氏



法要前の本堂



参加者一同



昌平寺 報恩講・遠夜

築地本願寺 報恩講

忘年のつどい